

2021 年度第 2 回総会議事録

開催日 6月27日(日) 13時～14時

開催場所 zoomによるオンライン形式

出席者 中元伊知郎、吉田進、石田直章、森英二、古城資久、吉田寿子、三浦浩、岡田有史、高橋省吾、岡本孝義、宇城元、大堂秀樹、瀬尾桂一、城隆志、以上14名

委任欠席 仲博幸、中ノ瀬啓作、以上2名
理事正会員19名中16名出席、1/2を超えているので、総会は成立

議長:吉田進

議事録署名人:古城元久、瀬尾桂一

《議決事項》

- 1、2020年度決算 吉田事務局長より2020年度の会計について報告があり、全会一致で承認された。
- 2、2021年度予算 吉田事務局長より2021年度予算案について説明があった。全会一致で予算案は承認された。
- 3、ガバナンスコード審査に向けて以下の規定について吉田事務局長より案が示され、全会一致で承認された。
 - ・競技者資格規定
 - ・危機管理マニュアル
 - ・委員会規程
 - ・日本代表選手役員選考規程
 - ・懲罰規程
- 4、2021年度新組織 吉田理事長より、2021年度組織図について説明があった。
2021年新組織について全会一致で承認された。
- 5、東京2020パラリンピックバイパルタイト申請について
吉田理事長より、パラランキングの発表があったことが報告された。WPPO発表ではパラリンピック標準記録を突破していなくてもバイパルタイト申請ができるとあったが、連盟では競技力の高い選手をパラリンピックに送るという理事会決定により、男女ともMQS(パラ標準記録)を突破している選手を対象に各階級1位の選手を申請することになった。
- 6、世界選手権について
ハンガリーからBatumi、ジョージアに変更された。11/27～12/6
締め切りが延期されたことから、チャレンジカップも世界選手権選考対象大会となることが報告された。

《報告事項》

- 1、2022～2025のIPC審判更新について吉田事務局長より報告があった。
現在日本には27名のIPC公認の審判がいるが、審判更新試験が9月にある。
以前は、競技経験者が審判になるケースが多かったが今回から、試験はすべて英語で行われ、英語力を試す試験もあることから、今後日本人の審判が大幅に減ることが危惧される。
今後どのように対応していくか、検討する必要がある旨、報告された。
- 2、車いすへのロゴ掲出について 吉田彫子事務員より案が示された。
理事会審議の結果、継続審議となったことが報告された。

3、 JPPF 旅費規程について改善案が理事会で承認されたことが報告された。

《意見》

- 1、 現在ドーピング違反を犯した選手に課せられる罰金について、誰が支払うか明記していない。この罰金は個人持ちであることを連盟で確認しておいた方が良いのではないか。(理事会にて審議)

以上、審議事項が終了したので、議長より閉会が宣言された。

書記;岡本孝義 

議長	吉田進	
議事録署名人	古城資久	
議事録署名人	瀬尾桂一	

資料

- 1、 決算報告書(NPO 書式)
- 2、 予算書(修正)
- 3、 組織図(修正)
- 4、 懲罰規程(總會案内で添付できていなかった分)
- 5、 旅費規程(修正)